

平成25年度 第1回教師力アップセミナー

「共感・感動で心をはぐくむ」

～読み物資料を活用した深みのある道徳の授業の秘訣～

貝塚市立木島小学校 川崎 雅也

文責 土 井

1 資料の何を読むか

おはよう。私の趣味はランニング。毎日走る。夜はPTAの会合があっても、それが終わった後、走って締める。

この2時間、共感、心を育むとは？を考えていきたい。

「心」を道徳で扱う。横山先生がよく言うが、豊かな心ってどんなこと？

「いろんなことを感じ取れる」「すなお」「やさしい」

私もわからないことがある。心はどこにある？

「頭」。そう思う人手を挙げて？（多数が挙手）

「全部にある」。そう思う人？（2, 3人が挙手）

他に、胸、ハートマークを書く。

それでは、心は見えますか？

「見えない」。でも、心は見ることがある。研修会でわかる。研修会では、見るからに義務で来た人がおり、そういう研修会は後ろから詰まる。（笑）

前、5列ぐらいが空く。前の方に人がいない研修会は寂しい。前はお得だ。当たるから。同じ金払うなら、前がいいのは歌舞伎と同じ。（笑）

17時までの研修は、17時2分になるとわかる。「早く終われ」というオーラが見える。そんな時には心が見える。（笑）

みんな、心はどこにあるかすらわからないのに、道徳教育をやっている。そういうものだというを片隅に入れてほしい。「心」と簡単にいうが、私もわかっていない。

心を育む推進をするのが道徳教育。道徳も幅広いが、今日は「道徳の時間」の話をする。本当は、生徒会とリンクした道徳教育などが得意なのだが・・・。

道徳の時間のやり方にはいろいろある。流派みたいなものだ。ICTを使うものもあるが、私は読み物資料を使った道徳だ。なぜそれが良いか、後で考える

私は、字が下手。道徳の授業を5年生でやった。授業の感想の他に、先生について一言という、決まっている。「声が大きい、元気があり面白い、字が汚い」の3つ（笑）。「字が汚い」は必ず書かれる。中学校ではあまりとやかく言われませんが、小学校、特に低学年でやるときどうしよう…。「はらい」や「はね」を意識したことがない。

今日は、先生相手だから、汚くてもいい。（笑）

資料の何を読むのか？「答えは、決まっている」という人は資料を読めていない。

初めて読んで感じたことは子どもも感じる。子どもと同じ読みのレベルでは、指導ができない。

それでは何を読むか？

1 ストーリー

研修会で授業を見て感じるのは、小学校の先生は、国語か道徳かの区別が付かない。

丁寧に物語を読んでいく。「このときどうだった？」と聞き、子どもたちは書いてあることを探す。国語ならいい。日本語を正しく読んで理解するのがねらい。私は数学だが、作者が何をいいたいか正しく読むのは国語。しかし、道徳は違う。50分1本勝負。50分で完結しなくてはならない。どんなにいいと思っても、1週間後では感動が飛んでしまう。小学校ならまだしも、中学校の場合は、次の時間に次の先生が来る。1時間完結でなくてはならない。

では何を読むか。

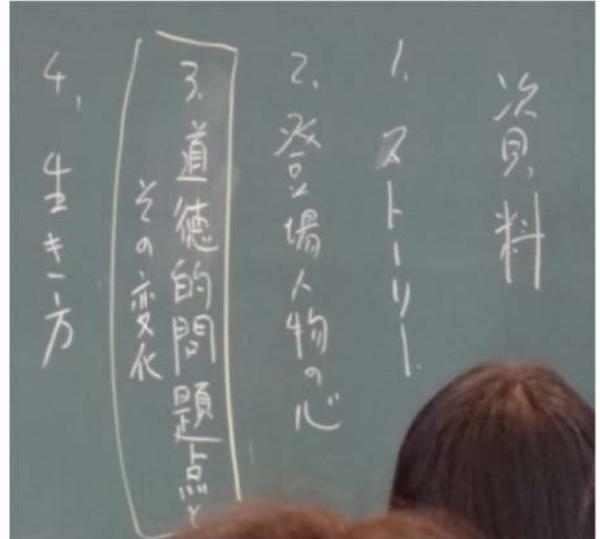
2 登場人物の心

心を読むことも必要だが、それだけで終わってはいけない。中心が大事。

3 道徳的問題点とその変化

人としての生き方、何が課題か、それがどう変わったか。これを中心にやる。

この3のために、2（登場人物の心）と1（ストーリー）がある



4 生き方

3を考えているときは4を考えている。3が中心で、そのために中心発問がある。

今日は、オーソドックスな道徳の資料を2本もってきた。小学用1本、中学校で1本。そして、もう1本はオーソドックスでない資料。



資料には、たいていは「前」があって、その行動は間違っている。そして、ある時、人生を揺るがす「出来事」が起こる。ここで道徳的価値が変化する。そして、「後」の人生が変わった。この「出来事」の部分を考えるのが道徳だと考えている。

横山先生は、よくタマゴッチを描いて教える。○を半分に切った上に、行動や言葉が入る。下にその時の心を考える。これが道徳だ。

具体的に資料を見よう、その方がわかりやすい。

2 はしのうえのおおかみ

「はしのうえのおおかみ」を朗読

この話はわかりやすい。この構造にぴったり。

こう考える。

1 誰が	2 どんな出来事	3 どこで心が変化したか
------	----------	--------------

これが中心だ。

誰が変わった？「おおかみ」

どんな出来事か？「熊との出会い」 この「熊」を「助言者」という。

どこで変わった？線を引いてほしい。隣と見比べて。

どこか？「おおかみははしのうえにたって、くまのうしろすがたをいつまでも見ていました」よかった。その通り。

おおかみは黒色のベンツに乗る人のようなもの。ワゴンRを威嚇する。細い道でぶつかったらどうするか？「待ってあげる」

どうしてもぶつかったら、近い方が下がるのがマナー。しかし相手による。お年寄りなら下がってやる。それが人間としての生き方。

おおかみは違う。でも、強そうな熊に出会うときは下がる。それが価値観。熊との出会いによって価値観が変わった話。

おおかみは熊の背中を見てどんなことを考えていか。子どもにはそこを考えさせたい。

「振り返って、優しくしようとする心が芽生えた」

「自分がやっていたことが違っていたと反省をした」

「怖い人に優しくされたときに、嬉しいと思った」

「背中を見ながらカッコいいなと思った。」

「強い大きい者は、小さい者に優しくしないといけない、威張ってはいけないと思った」

小学生に聞いても大人に聞いても3パターンある。

分析すると、道徳の発問で、この手の資料は3パターンの答えが返ってくることがわかった。川崎の理論だ。(笑)

どういうことかという、1パターン「反省、後悔」子どもとやると、まずここから出る。

当然だ。自分の良くなかった生き方が変わったのだから、良くなかった生き方を反省する。

大人でやると2パターン目が多い。2パターンは、人の良さをいう。熊がかっこいい。

この1と2は表裏。どっちが先でもかまはない。

3パターン目が大事。ここ(後)の部分。これからの自分を考える。

反省とは「過去」の自分。嬉しいとか優しいとか、感謝の部分は、「現在」の部分。道徳は、「未来」の自分を考えたい。未来に入ると、道徳が深くなる。

この資料の何が良いか。

たいてい1と2だけが出る。「まちがっていたな」と「熊さんやさしいな」。

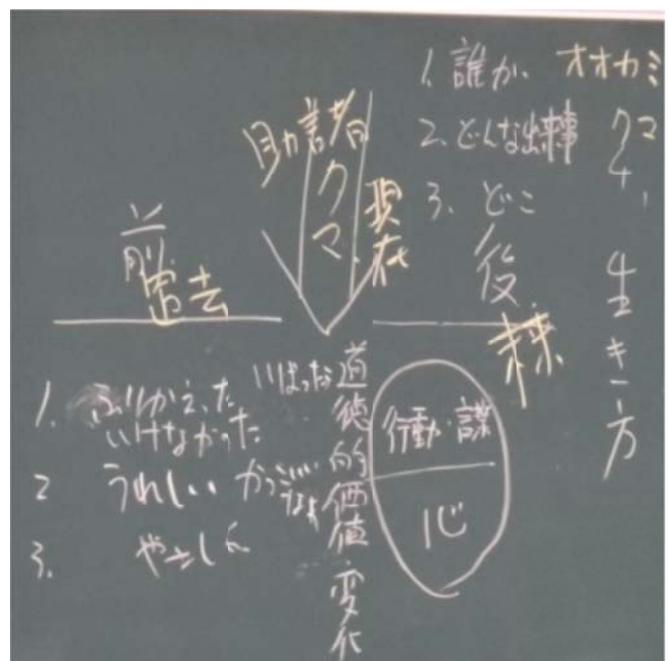
でも、この資料は、ここが好き。最後の行。

「ふしぎなことに、おおかみはまえよりもずっといいきもちでした」

子どもに聞いてやればいい。なぜいい気持ちなの？

「自分もできた」「蹴散らし低い気持ちから、思いやる自分が気持ちよかった」

子どもは、おもしろいことを言う。「うさ



ぎさんの喜ぶ顔が見えたから」

資料には、うさぎが喜ぶ顔のことは書いていないけど、子どもには映像になっている。読み物ではなく、アニメにしてやったら、最後にうさぎは喜んだ顔をしている。自分の頭で映像化すると、心の響きかたが違う。テレビで見ると、笑っているになる。

自分の中で考える力は資料にある。映像は見てわかる。資料で考える時は右脳で考える。

ある研修会でこんなことを言う奴がいた。

「熊は力自慢をしたいだけだったのでは？」

そう考えるのは自由だが、そんなこと考えて嬉しいか？（笑）

こんなことを言う人もいた。

「うさぎに出会った。逃げなくてっ、と抱き上げた時に、うさぎは川に落とされるかもと不安ではなかったかと子どもに聞かれたらどうするのですか？」という質問だった。

わたしは、「子どもにそんなこと考える子はいません」と答えた。うさぎが笑っていると考える方が心は豊か。（笑）

横山先生にはいつも怒られる。「川崎は内容項目がない」と。

わたしは、「生きる」。どう生きるかを考えるのが道德の時間だと考えている。

よりよく生きるのが道德の時間

思いやりのあるのがいい。あなたはいつでも思いやりの心があるか？「ない」

正直だ。いつも思いやりの心があるわけではない。

あなたは誠実か？「誠実ではありたい」 誠実ではありたいが、誠実ではない。（笑）

簡単にわかる。「ウソついたことありますか？」これでわかる。

ウソを何回付きました？「数えきれない。」

数学科なので、ある真実がある。ウソを付いた回数と年齢は比例する。（笑）

先生より、子どもの方がウソをついた数が少ない。（笑）自分の不誠実さを棚に投げて、子どもに誠実たれという。（笑）

しかし、それも大切。子どもがうそを付いたときに、「だめ」といえなければ教師を辞めなければならない。

かつて、荒れた学校では、見て見ぬふりをしたともある。悲しいことだ。でも、いけないことはいけないといわなくてはいけない。誠実に生きなければいけないと思っても生きられないのが私たち。

「誠実に生きることは、なんて素敵なんだ」と思わせるのが道德。

道德は教える時間ではない。一緒に考える時間である。 優しさって良いな、と共感すればよい。やっぱりそう生きるのが自分はいいな、でよい。このように生きなさいではいけない。

内容項目を毎週考える中で、最終的にどんな生き方をしようかを考える。生き方は、一生考えなければならない。死ぬまでどう生きるかを考える。その基本を、子どもは道德の時間に学ぶ。今の道德を教科化しようとする流れは怖い気がする。生き方は、人に押しつけられるものではない。自分で考えるものだ。

基礎知識を持っていれば、子どもが自分で気づくように突っ込んでやらなければいけない。



誘導ではだめ。補助発問で気づかせる。それが教師のスキルだ。

3 一冊のノート

読むだけで5分から10分かかるのを50分で授業しなくてはならない。今日は35分でやってみる。一緒に考えてほしい。

授業をする時、毎回、最初に貼るのが「生きる」。

私は、道徳の授業に導入はいらなと思っています。

しかし、いつも飛び込みでやるから、コミュニケーションをとるために、1回だけできる方法がある。子どもにも好評で、どこ

でもできる。やってみる。

生きていますか？「はい」

どんな時に生きていると感じる？「元気に話をしているとき」なるほど。「ご飯を食べているとき」「おいしいビールを飲むとき」「走っているとき」

10人ぐらい当てると、子どもは考える。「どんな時？」というと、初めは目がテンになるが、誰かがいうと、そんなことだと思ふ。

これは3分で終わる。全員当てるときは、立たせてやると、言わなければオーラが出る。

この前は、ある中学校で3年生に聞いたら、「死んでいる」といったので、「しゃあねえな」といったら笑いが起きて、場が和んだ。

ただし、これは1回しか使えない。毎回やったら変だ。(笑)

1回読む。私は、いつも涙が出る。いい資料だ。

道徳は、いい資料を使わないといけない。腐りかけた魚より、新鮮な鯛の方がいい。まずは資料を選ぶこと。

どんな資料が良いか？自分の心に響く資料だ。

読んでみて、「こんなことはありえない」と思った資料ではうまくいかない。

「一冊のノート」 北鹿渡 文照 を朗読

この資料を使って、生きるということを考えていきたい。

祖母はどんな人？「物忘れがはじまっている」

痴呆の祖母と孫との話。それだけわかればいい。

数学の問題集がなかった。弟の方がめざとい。新聞入れからさがして、やっぱりおばあちゃんや。迷惑をしているんだと、祖母を非難した。

なぜ非難したの？「祖母がしまいこんだから」「今までもあったから」

だから一斉に非難した。 ※「非難した」を掲示

次、3人での部活の帰り、おばあちゃんに出会うが知らないふりをしていく。

どうして知らないふりをしたの？「はずかしいから」自分のおばあちゃんだよ。「でもはずかしい」

どうして？「自分のおばあちゃんだからこそ恥ずかしい」。そうか、だからこそはずかしい。

※ 「知らん顔」を掲示

こんなこともあった。父にいうと、病気だからといわれた。ある日、電話がかかってきたの

に、おばあさんのせいで約束を破ってしまった。

激しく祖母をののしった。どうして？「我慢の限界だった」

なぜ限界になったかの？「友達との約束を破ったのに、自分の過失ではなく、祖母のせいだから」そうだね。 ※ 「ののしった」を掲示。

こんなこともあった。大事なのはここから。3枚目の、13行目以後。

ここまではあっさりやる。父の気持ちを聞いてもしょうがない。今日は3つやったが、1つでもいい。いくつ聞いても変わらない。ここからがいいところ。ここに時間を取りたい。

もう一度読む。

ずっと祖母のノートを読んでいた。居たたまれなくなって、空気に押しつぶされそうになった。部屋から出た僕は、庭の片隅にしゃがみ込むおばあちゃんがいた。黙って、祖母の横に並んで草取りを始めた。

ここを子どもに考えさせたい。

※「何」を掲示

だまって祖母と並んで草採りを始めた僕。僕は心の中で、祖母に何を語りかけているか？

「おばあちゃんの思いに気づいてあげられなくてごめんね」

「一生懸命やっている思いに気づかなくてごめん」

「おばあちゃん、ありがとう」何が？「今まで面倒を見てくれて、僕たちにつくしてくれて」

「今まで、自分のことばかり考えていたけど、おばあちゃんの気持ちがわかったよ」

どうですか？「おばあちゃんに優しく接していきたい」

いいですね。「今まで非難していたけど、それでも大切にしてくれていたんだ」

「ぼけが始まって非難していたけど、僕にも何かできることはないか」

「かわいそうだな。」なぜ？「病気になったことついて。何かできたらな。」

「僕らのことを考えてくれているが、つらい思いをしている。」「一番苦しんでいるのは、おばあちゃんだったんだ」

あと10年。せめてあと5年。この思いは？「死ぬまでめんどろみでやりたい」どういう数字？「僕と弟が成人になるまで」そうだ、なんとか生きたい。なんとかしたい。しっかりしろ、おばあさんや。だんだん悪くなって、最後のページにインクの跡。

何の跡？「涙」書けなくなって、おばあちゃんの涙。

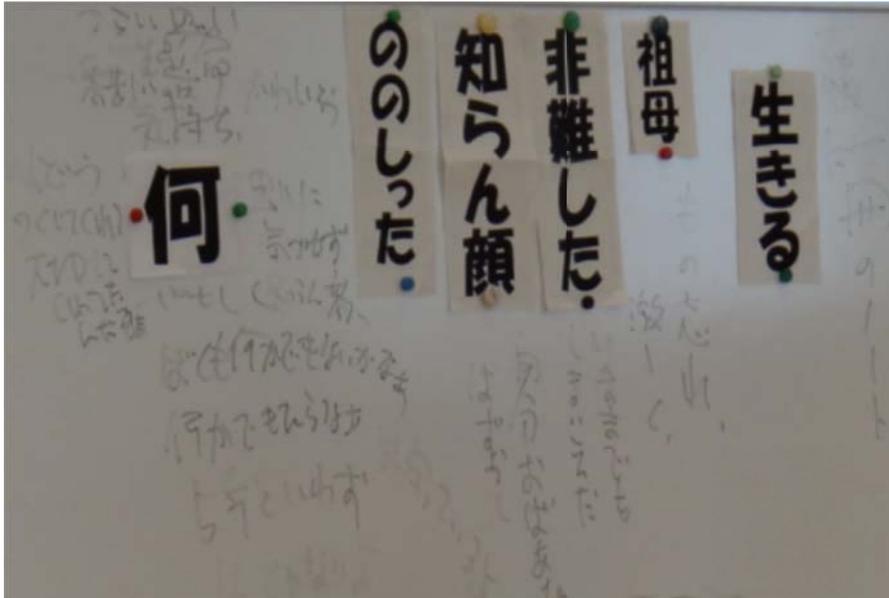
もうどうしようもなく居たたまれなくなった。部屋の空気から逃れなくなった。おばあちゃんが草取りをしていた。日頃なら、何も思わなかった。ずっと見て、並んで草取りを始めた。

何て語っているか？「ありがとう」いいですね。何に対して？「自分がつらい思いをしながら、面倒を見てくれた」「もっと長生きしてほしい」「知らん顔をして通り過ぎたのは、申し訳なかった」

心の中でなんと語っていますか？「おばあちゃん、一人じゃないよ」「いつも、一緒にいるよ。見守っているよ」もっともっと深めればいい。もっといろいろ考えていってくれる。

そして、最後に「おばあちゃん、きれいになったね」とある。

何がきれいになった？「庭がきれいになった」



どうですか？「おばちゃん自分が自分にとって、きれいに見えた。」前と顔変わらないが？「感謝の気持ちが芽生えて、見え方が変わった。」

これは、長いことやらない方がいい。感性を聞きたい。長くやると理屈になる。

今日は、生きるについて話したね。ここ(板書の「生きる」の横)に、「いっしょ」

にと書く。その後、感想を書いて終わる。これ(いっしょに)を意図して書いている。

この構造(過去-出来事-変容)と一緒に。

僕が、おばあちゃんの存在で心が変わった。前は、ひどい。片づけを任せきりでしてなかった。非難する前に自分の行動を改めよ。(笑)

自分のおばあちゃんだから恥ずかしい。身内だからはずかしい。もっとひどいのは病気だとわかってののしった。ひどい。

最初はやっぱり、「ごめんね」。これ(自分)で終わってしまう。子どもは「ごめんね」しかいわない。そこで、なぜごめんかを聞く。そうしないと深まらない。

次に出てくるのが、「ありがとう」。これが、ここ(相手)の部分。世話になっている、ありがとう。これは表(自分)裏(相手)。

子どもはここで止まる。ここで、次の部分に行かない。

涙の意味、「あと10年、せめて5年」、ここをちゃんと読む。そのイメージを作らせない。

「ぼく」の気持ち。横山先生は、「主人公の着ぐるみを着て、考える」とよく言う。

背中を見たとき、「僕」は泣いている。だから横に並んだ。泣いているから、よう声をかけなかった。だから語っていないし、だまって草を取っている。

声をかけたのが、「きれいになったね」

福山で授業をやったとき、印象的だった。前は簡単に終わる。中心発問で35人に全部当たった。だんだん深まった。

初めは、「ごめんね」、「ありがとう」。だんだん、「面倒見るよ」になっていく。これは順番に当てるから、考える。

そのとき、真ん中の女の子が、不良っぽい子がいた。何と言うかなとおもったら、平凡なことをいった。「ありがとう」。何がきれいになった？と聞いたら何と言ったと思う？「顔」と言った。大阪のノリで、「誰の？」ときいたら、「おばあちゃん」。顔は一緒だとつっこんだ。「心が変わった」といったら、周りがほお~となった。

その後ろのひょうきんな男の子。「庭」といった。

次に、3人目。何と言ったか？「服」。この場面。誰の？「おばあちゃん」、待ってました！服はさっきも一緒と言ったら、「心が変わったから」。しっとりした空気になった。ここでやめればよい。

前に教師の研修で、こんなことがあった。

「庭」から入る。答えが、庭以外考えられない教師がいた。

道徳は理屈でない感性の部分。元は文部科学省の資料だが、あかつきに載っている資料。あかつきの挿絵はこれ。

こんなイメージしたか？「もっと、きたないかっこう」背は？「低め、腰が曲がっていた」、髪は？「短い」このイメージでやりたくない。

挿絵は怖い。イメージが決まるから。わたしは、だから絵は使わない。イメージが流される恐れがある。これが映像になったらなおのこと。それでも悲しい。しかし、読み物資料ならインパクトが違う。だから、文章だけ打ち直して使う。



4 「語りかける目」

次の資料は、私の3本の指に入る資料。

富山県に呼ばれたときに見たが、悲しい授業だった。せつかくの天然物の鯛を、刺身でなく、甘辛く似た授業。その時少女はどんなことを思ったか？悲しいに決まっている。

そのあと、私が模擬授業をした。

感動的な資料は、いっしょに感動した部分を話し合えばよい。これは、阪神淡路大震災の時の実話だ。

私自身に被害はなかったが、震度5はあってびっくりした。川の字で5人寝ていたが、飛び起きて、6歳、5歳、3歳の子どもを守った。朝になって、テレビを見たら、神戸で地震があった。海沿いの学校にいたので、校舎から神戸が見えたが、煙が上がっていた。

今から読む。感動した部分、1箇所を線で引いてほしい。

「語りかける目」 警察官の手記 朗読

授業で「生きる」を考えるよ。当てていく。

どこに線を引きました？「少女の名前を聞くことさえ忘れていた」なぜ、「警官の心」

どこ？「ありがとうございます。もう逃げなさい。と、母は握っていた手を放した。」ここがメジャー。なぜ？「母と少女の葛藤」

どこに線を引いたかはどうでもいい。理由を聞くのが大事。

私は、全員立たせる。言った人からすわる。それもいいんだよと声をかけながら。

響いたところを言って、なんで響いたかを聞いて、情景とかを説明しながら味わっていく。全員当てると20分かかかる。最後に、中心発問をする。子どもと共有して、資料をもう1回読みとることになる。

体育館が広い。そこにナベの前に座っている、すごい光景。遺骨が入っていた。どこをとってもかわいそう。

この資料は、先ほどのようなやり方をしてもしょうがない。

少女は、最後まで私の目を見続け、警察官に、目は生きている、哀しいと思った。美しいと思った。強いと思った。少女の名前を聞くのさえ忘れた

警察官にここまで思わせたのは、彼女のどんな思いですか？「生きていくぞと言う気持ち」「死んじゃった母の分も生きていく」残り時間、これをやるだけ。

不安とも言う。中学生は自分とオーバーラップする。大人の女性だと、自分が母になる。PTAだと号泣する。父親だと警察官の立場になる。

いろいろある。深めることによって、少女の思いを考える。

最後に、こう書く。

それでも（今でも）生きている。

実話だ。みんな、ほ～んという顔をする。生きるということだ。

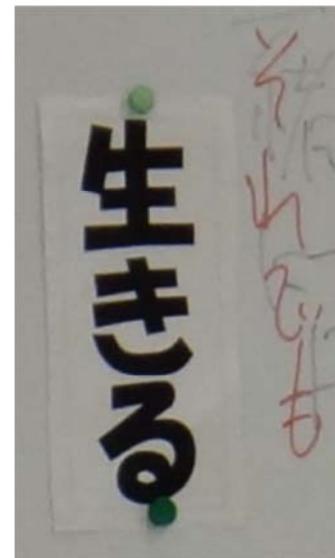
生命尊重でやっている。家族愛でやる方法もある。

それでも生きている。母の分も背負って生きている。生きるって、やっぱり素敵と思えるようにしたい。

昨今、大阪で体罰が問題になった。哀しくなる。体罰が良いか悪いか、悪いに決まっている。問題は殴ったことではなく、子どもの夢や希望をなくさせた。子どもに夢や希望を持たせ、生きることを考えさせることが教育。殴ってなくても、夢や希望を失わせていたら同じ。

教育は、生きることはすばらしいと思わせること。それが教育。

この少女は哀しいに決まっている。それでも生きていくんだ。そう思いたい。それを考え、やっていくのが教育だ。



5 まとめとして

今日は模擬授業を行った。本当は30人から40人が適正規模。模擬授業を通じて道徳の授業の良さを考えてもらいたかった。

レジメにピラミッドがある。

私は、一番上の部分を見せた。△の何かというと、自分が模擬授業をやるときにこだわっている3つである。

何か？「自分の心に響く」それは前提だ。

「聞く」「共感して聞く」その通り。まず受容。受容に始まり、受容に終わる。受容では何が大事かということ、目を見て聞くこと。

先生でよくあるのは、一生懸命板書する。きれいに長く書く。それで、子どもの顔を見ないのなら、書かないほうがまし。板書はあとづけ。目を見て、近くによって聞いてあげることの方が大切。

道徳は内面を聞く。文章に書いてあることは、自信を持って言う。しかし、内面については声が小さくなる。

「もっと、大きな声で言いなさい」は言うてはいけない。自信がないときは、声が小さくなる。そうしたときは教師が拡声器代わりになってやればよい。

クラスができてくれば、受容されている安心感があると、だんだん大きな声になる。

昨日も、子どもがブレイクした。5年生ではじけた。手を挙げだし、笑いが出てきた。そのためには、受容。認め、承認していく。承認は、うなづく、板書する、声掛けなど。

次にこだわっているのは、**深める**。そのためには繰り返す。聞きっぱなしでは深まらない。受容・承認・深めるを意識する。これは、氷山の上の部分。

見えない部分に二つある。

何か？一つは**資料の読み**。その資料をどう読むか。教科で言えば教材研究。一読してやったら、深まらない。資料の読みは大事。

横山先生を囲む会では、資料の読み方を勉強している。大阪で開催し、今師範をやっている。先生には、川崎は勝手にやればよいと言われて嬉しかった。

資料の読みの研修会を9回やった。毎回2本資料を読み、どう読むかを検討している。

前は、こてんぱんにやられた。先生の罠に引っかかった。一方的な見方と言われ、もっと勉強しなくてはいけないと思った。「一冊のノート」では、前の部分をやっても時間との勝負だから、どこをやるかが勝負。僕の気持ちと滲んだインクはやりたい。

もう一つ下にある。

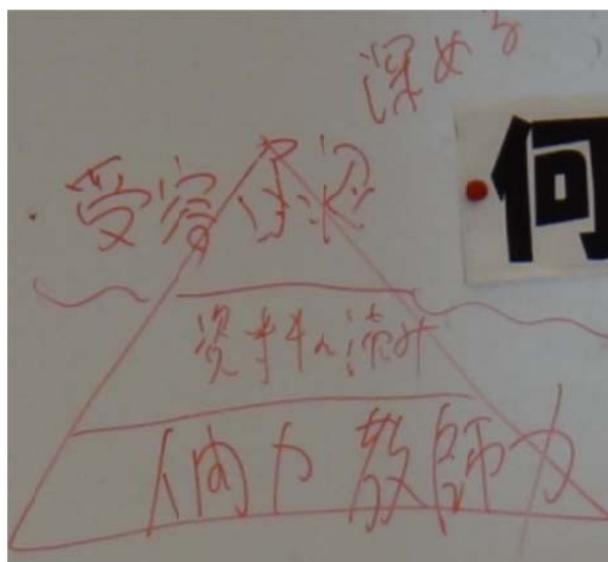
資料の読みは訓練すればよい。

もうひとつ下に大事なものがある。これが難しい。それは、**人間力、教師力**だ。

子どもを手のひらで扱えるようになる技術。子どもを皿の上で泳がす。皿の大きさには違いがある。これは自分を磨くしかない。自分はどう生きるかだ。

ここにいる人は共通している。教師だ。辞めたら教師でなくなる。教師としてどう生きるか、いかに生きるか。

明日からも頑張っていきたい。



道徳の授業を勉強したい人は、次のHPも見てほしい。この勉強会は誰でも参加できるので是非、参加してください。

横山利弘先生を囲む道徳教育研究会

<http://www.kinki-doutoku.com/yokoyama/category/movie/>

道徳ナビ I N 大阪

<http://www.kinki-doutoku.com/osaka/>